

法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
作成(所管課)	府民文化部人権局人権企画課

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

- 大阪空襲犠牲者を追悼し、平和を祈念する
- 空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報・資料を収集・保存・展示する
- 戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代へ伝え、平和を願う豊かな心を育み世界の平和に貢献する

■ 大阪府の施策

- ・平和施策の推進

基本方針

1 平和学習の推進

「大阪中心」に「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」を行う平和博物館として、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代へ伝える。

2 ピースおおさかの利用促進

「大阪空襲を語り継ぐ平和ミュージアム」として国内外を問わず一人でも多くの人に館の利用を促す。

3 館外での資料活用

館外での平和の情報発信、ピースおおさかのPRの場としての活用

4 自主財源・入館料収入の確保

自主財源の確保による事業実施と、有料入館者の確保に努める。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

① 平和学習の推進

- ・府内公立小中学校来館率
【31.4%(R6実績)→32.3%(R11)】
- ・学校関係へのPR
【30回(R6実績)→30回(R11)】
- ・平和学習満足度
【94.6%(R6実績)→90.0%(R11)】

② ピースおおさかの利用促進

- ・入館者数
【73,681人(R6実績)→77,900人(R11)】

③ 館外での資料活用

- ・貸出資料利用件数
【406件(R6実績)→415件(R11)】
- ・出かける展示
【12回(R6実績)→12回(R11)】

④ 自主財源の確保

- ・平和寄金収入
【1,356千円(R6実績)→977千円(R11)】

⑤ 入館料収入の確保

- ・入館料収入
【4,233千円(R6実績)→4,927千円(R11)】

○ 令和6年度の経営目標達成状況及び令和7年度経営目標設定表

Ⅰ. 最重点目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウェイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 〔見込値〕	R7 目標値	R7 ウェイト	中期経営計画 (R7～R11)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R7 目標値	最終年度 目標値	
① 平和学習の推進	府内公立小中学校来館率 (ピースおおさかに来館した府内市公立小中学校数／ 府内全公立小中学校数)		%	20	30.0	31.0	31.4	31.6	20	31.6	32.3	中期経営計画に基づく。
	学校関係へのPR		回	10	30	30	30	30	10	30	30	中期経営計画に基づく。
											戦略目標達成のための活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	○当法人は、①大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念する ②空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報・資料を収集、保存、展示する ③戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代に伝え、平和を願う豊かな心を育み、世界の平和に貢献することを目的とし、平成27年4月に「大阪中心」に 「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」にリニューアルし、主に平和学習施設として運営している。 ○先の大戦を自らの体験として語る人は少なくなる一方、平和学習施設として当法人の果たすべき役割の重要性は高まっている。平和の尊さを次 世代へ伝えるべく、館の取組みについて府内小中学校へ働きかけ、1校でも多くピースおおさかを利用してもらうことを最重点目標とする。											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	○当財団の運営費のほとんどは府市の補助金に依拠しているが、平成20年の財政再建プログラム案において「府派遣職員は必要最小限」とされ、そ れ以降の補助金の減額も相まって、組織体制、事業展開とも極めて厳しい状況にあり、限られた人員・資源を生かした効果的な運営が求められてい る。 ○府内の公立小中学校については、エリアごとによってピースおおさかへの来館率にばらつきがあり、来館率の低いエリアへの効果的な働きかけが 必要である。										・府内全小中学校に対する来館案内 ・市町村教育委員会や校長会等においてのPRの実施 ・令和6年度に写真や機能を追加したデジタルコンテンツの利用促進 ・講堂や会議室の利用の促進、教員等による平和や人権研修の誘致 ・定時映画やDVD化した戦争体験証言映像の上映、見学ワークシートの提供、戦跡めぐりなど、教員の 平和学習のサポートに取り組む ・学校の来館時期の分散化への取組み	
活動方針	令和5年度に作成した学習用デジタルコンテンツの周知を含め、館の取組みについて学校等への働きかけを行い、府民等への平和学習機会の充実 を図る。 また、これまで蓄積してきた収蔵資料の整理、保存・活用に努め、博物館機能の強化を図るとともに、平和・人権研修などの誘致や他団体との連携を 深め、平和ミュージアムとしての情報発信に努めていく。										・学校教員向けのアンケートによる効果的な平和学習のニーズの把握	

法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
-----	------------------

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 ウエイト	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 〔見込値〕	R7 目標値	R7 ウエイト	中期経営計画 (R7～R11)		R7目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R7 目標値	最終年度 目標値		
① 平和学習の推進	平和学習満足度 (「ピースおおさかが平和学習の場として役立ったか」という問いに対し、「役立った」/「全回答」) (選択肢は、「役立った」「役立ったがもう少し工夫・改善があればなお良い」「あまり役立たなかった」「役立たなかった」)		%	10	96.2	90.0	94.6	↓ 90.0	10	90.0	90.0	中期経営計画に基づく。	・教員向けアンケートによる効果的な平和学習ニーズの把握
② ピースおおさかの利用促進	入館者数		人	15	72,543	72,000	73,681	↓ 72,300	15	75,600	77,900	中期経営計画の考え方にに基づく。	・企画事業の充実 ・他の博物館等との連携 ・会議室活用の誘致 ・学校の来館時期の分散化への取組み ・SNSを活用した情報発信 ・夏休み等校外学習がない時期の催しの充実
③ 館外での資料活用	貸出資料利用件数(デジタルコンテンツ利用件数含む)		件	10	—	390	406	407	10	407	415	中期経営計画に基づく。	・来館が困難な学校に向けたPRの実施 ・デジタルコンテンツの説明会の開催その他積極的なPRの実施 ・貸出資料を増やして対応
	出かける展示		回	10	11	12	12	12	10	12	12	中期経営計画に基づく。	・展示先の確保 ・展示内容の充実

Ⅲ. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 自主財源の確保	平和寄金収入		千円	15	877	900	1,356	↓ 956	15	934	977	R6実績を踏まえて設定。	・企画事業等での積極的な寄附の呼びかけ ・税の優遇措置のPRの継続
⑤ 入館料収入の確保	入館者1人あたりの事業費		円	10	1,243	1,270	(〔1,247〕)	—	—	—	—	—	—
	入館料収入	☆	千円	—	(3,835)	—	(4,233)	↓ 4,163	10	4,341	4,927	中期経営計画の考え方にに基づく。	・魅力ある企画事業の実施やSNSを活用した積極的な情報発信

- 【凡例】
- ・☆はR7年度からの新規項目
 - ・×は目標値未達成
 - ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 - ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 - ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

CS調査の実施概要

○令和6年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
平和学習到達度	アンケート(書面・小中学校教員記入)	学校行事で来館した小中学校の教員	538	通年

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
アンケートに記載の主な意見(要望・改善点など) ①混雑していて展示が見にくい。 ②現代の世界情勢も展示してほしい。 ③展示内容について、もっと被害と加害の両面から伝えるべきである。 ④生徒が図書室を利用できるようにしてほしい。	①来館PRの際に来館時期分散のお願いや、予約段階から午前枠・午後枠の定員を設けて混雑防止を図っている。定員を超える場合は、電話対応により他の空いてる日への誘導を行い分散を図っている。 ②特別展(ユニセフ写真展)において現代の世界情勢の中での子どもの状況を展示に盛り込んだ。

○令和7年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
平和学習満足度	アンケート(書面・小中学校教員記入)	学校行事で来館した小中学校の教員	530	通年

・CS調査に関する令和7年度目標(再掲)【※ 成果測定指標の場合】

戦略目標	成果測定指標	単位	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値 [見込値]	R7 目標値	CS調査の数値を成果測定指標に 設定した理由及び目標値の根拠
平和学習の推進	平和学習満足度	%	96.2	90.0	94.6	90.0	(設定した理由) 小中学生の来館が来館者総数の半数以上を占めており、平和学習を推進する機関としてその満足度が重要な要素となるため。 (何をめざすのか) 当館の展示見学や提供する平和学習メニューにより、その満足度をできる限り高水準に保つこと。 (目標値の根拠) 展示内容や歴史認識などについての様々な考え方、施設面の制約等での限界もあり、年度により実績値は変動するため、90%を最低ラインとして設定する。

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

CS調査の実施概要

○令和6年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度(小中学生)	アンケート(書面)	入館者のうち、小中学生	1,259	通年

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
アンケートに記載の主な意見(要望・改善点など) ①体験型の展示を増やしてほしい。 ②展示の解説文字が小さくて読みづらい。 ③順路が分かりにくい。	③引き続き受付から来館校の代表教員に入館前の構造・見学順路についての説明をより丁寧に行い、教員から生徒に対しても説明してもらうよう徹底した。また、館内の案内表示を充実させた。

○令和7年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度(小中学生)	アンケート(書面)	入館者のうち、小中学生	1,250	通年

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

■ 成果測定指標変更(廃止)希望の理由について

〔1〕

●変更前

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値
入館者1人あたりの事業費	円	1,270

●変更後

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値
入館料収入	千円	4,163

成果測定指標の 変更(廃止)を 希望する理由	前計画で指標とした「入館者1人あたりの事業費」は、府市補助金対象支出額を入館者総数で除した数値であり、成果測定指標である入館者総数と重複していると審議会において指摘があった。 当館は、小中学生や満65歳以上の者等を無料としており、有料入館者の割合が約2割程度に留まっている。しかしながら、戦争の悲惨さや平和の尊さを広く伝えるためには、小中学生等だけでなく、さまざまな世代への平和情報の発信は不可欠である。そのため、魅力ある企画事業の実施やSNSを活用した積極的な情報発信などにより、有料入館者の確保に向けた取組を強化したいと考えている。この取組成果を測る指標として、新たに入館料収入を目標に設定する。
------------------------------	--

〔2〕

●変更前

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値

●変更後

R7年度の 成果測定指標	単位	R7年度の 目標値

成果測定指標の 変更(廃止)を 希望する理由	
------------------------------	--

■ 令和6年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
学校関係へのPR	回	30	30

マイナス (現状維持) 目標の考え方	校外学習の小中学校の来館促進を図るためには、当館を積極的にPRし、その利用を呼びかけていくことが重要となる。府市所管課の協力のもと、学校のメーリングリスト等を活用した来館促進PRや各学校へ館のチラシやイベントの案内の送付に加えて府内公立小中学校の校長会等の場を活用してのPRを行っている。前計画期間中は、年々PR回数を増加させ、令和5年度からは年間30回行ってきた。本取組は、来館率の向上に有効なものと考えており、令和7年度においても30回を維持することとして目標値を設定する。
--------------------------	--

〔2〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
平和学習満足度	%	94.6	90.0

マイナス (現状維持) 目標の考え方	平和学習満足度は、来館のあった小中学校の代表教員に対するアンケートにより算出しており、リアルな実物展示や映像、定時映画の上映、ワークシートの提供等で概ね高評価を受けている状態である。しかしながら、アンケートによるニーズに出来る限りの対応はしつつも、施設面の制約等での限界や、また展示内容や歴史認識などについての様々な考え方があることから、年度により実績値は変動するため、90%を最低ラインとして設定する。
--------------------------	---

■ 令和6年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R6年度の 実績値〔見込値〕	R7年度の 目標値
入館者数	人	73,681	72,300

マイナス (現状維持) 目標の考え方	少子化の影響により小中学生の減少傾向が続く中でも、若い世代や外国人入館者の増加により、基本的には入館者数の増加を見込むべきところ、令和7年度においては、館内工事による臨時休館(延べ13日程度)を予定しており、それによる減少分を1,600人と見込んでいるため。
--------------------------	---

〔4〕

成果測定指標	単位	R6年度の 実績値〔見込値〕	R7年度の 目標値
出かける展示	回	12	12

マイナス (現状維持) 目標の考え方	館外での平和の情報発信と、ピースおおさかのPRの場として、パネル・実物資料の展示を図書館等の協力のもと実施している。 令和2年度より、中期経営計画で定めた目標(12回)を達成してきたが、限られたマンパワーと展示先の確保が不透明な状況の中、継続的に実施するため、令和7年度においても12回を維持することとして目標値を設定する。
--------------------------	---

■ 令和6年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
平和寄金収入	千円	1,356	956

マイナス (現状維持) 目標の考え方	令和6年度において、当館にゆかりのある個人の方から計40万円の寄附があった。本寄附については、特別な要因による寄附であることから、令和7年度の目標値の設定においては考慮しないものとする。 また、令和7年度は、工事による臨時休館で入館者数の減少が見込まれるが、戦後80年にあたる年でもあり、節目の年にちなんだ寄附募集のチラシ配布や企画事業開催の際に広く寄附を呼びかけることなどにより、上記特別寄附を除いた956千円を目標として設定する。
--------------------------	---

〔6〕

成果測定指標	単位	R6年度の実績値〔見込値〕	R7年度の目標値
入館料収入	千円	4,233	4,163

マイナス (現状維持) 目標の考え方	令和6年度は、外国人入館者数が過去最高値となり、4,233千円の入館料収入となった。 令和7年度も外国人入館者数の増加を見込んでいるが、工事による臨時休館(延べ13日程度)による入館者数の減少に伴い、入館料収入も同様に減少すると見込み、4,163千円を目標として設定する。
--------------------------	--